

3月1日（水）2学年 修学旅行に向けて、自分たちでルール作り

令和5年度、進級すればすぐに迎えることになる修学旅行に向けて、2学年でも本格的な準備が始まっています。2月15日（木）6校時は修学旅行に向けて必要なルール検討を開始しました。

各学級で「駅や公共の場での集合・整列・移動の時」「都内自主研修の時」「テーマパークや観劇の時」「ホテルで過ごす時」の場面に分けて、それぞれの望ましい行動と望ましくない行動はどのようなものかを検討しました。

具体的な行動を基に、どのようなルールが必要かまで検討を進めていきます。

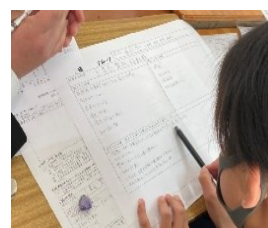
あるグループは本格的なミュージカルや劇を観たことがない生徒がほとんどということで、「観劇のマナー」についてタブレット端末で調べながら検討を進めました。「ミュージカルの内容や俳優について調べたりして、事前に予習してからいくとより楽しめるし、演者の皆さんも気持ちよくパフォーマンスができるよね。」といった声が聞こえてきました。

また、あるグループは、「駅や公共の場での集合・整列・移動の時」などに、どのような行動が望ましいか検討しました。望ましい行動として「時間前行動」「指示をきちんと聞く」「列を整える」「静かに・素早く行動する」「優先順位を考えて行動する」といった意見が挙げられていました。「自分勝手な行動をすると他の人にも迷惑がかかってしまったり、せつかくの修学旅行なのに自分一人の都合で物事を考えるようになったりしてしまい、楽しい修学旅行が台無しになる」ということまで考えた上で提案されたルールの案は「自分よりも、友達や他の人のことを考えて行動する」という項目でした。

各学級、真剣に話し合いを行い、前向きな姿勢で検討しました。各学級で検討したルールの案は、修学旅行実行委員で整理し、後日みんなに示す予定です。学年みんながかかわって作ったルールを、大事にしてほしいものです。

修学旅行の準備を通して、自分達で企画し、形にしていくことの充実が味わえるようにしていきたいと思っています。ルール作りや自主研修の行程作成など、生徒にとって初めての経験ばかりで大変さもあると思いますが、自分たちで正しく考え、判断していく力を伸ばすためにも、最後までやり切りたいと思います。

最高の思い出作りに向けて、みんなで力を合わせて頑張ります。



3月1日（水）宮城・兵庫の中学生 震災学習で意見交換「日ごろから心構え」 宮城・石巻市

3/6(月) 18:35「ミヤギテレビ」より

東日本大震災から12年となるのを前に、石巻市の中学生が兵庫県の中学生と交流し、震災の恐ろしさや避難の重要性について意見を交わした。石巻市の桃生中学校



校では、「阪神・淡路大震災」を経験した兵庫県の竜山中学校と去年10月からオンラインで交流会を続けていて、今回で3回目。6日は1年生約50人が、今年1月に震災遺構「門脇小学校」を訪問した時に、被災者から聞いた話や素早い避難の必要性などを伝えた。〈宮城・桃生中学校の生徒〉「『児童と避難訓練通りに避難し、校内にいた児童は全員助かった』この話を聞いて、『まあいいか』ではなく自分に厳しくしていきたいと思った。日常生活を大切にしていると助かる命もあるのだと納得した」

〈兵庫・竜山中学校の生徒〉「避難経路とか防災学区や避難場所などを家族と話し合って準備することや、いつ来て



もいのように日ごろからの心構えが重要だと思った」 桃生中学校と竜山中学校では、震災学習を通して来年度も交流を続けていく予定。

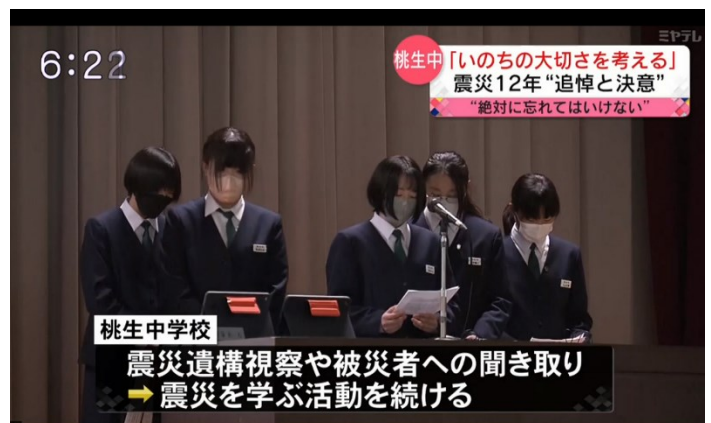
3月6日（月）2学年「絶対に忘れてはいけない記憶」中学生が示した“追悼”と“語り継ぐ決意” 宮城・石巻市

3/3(金) 18:56 配信 「ミヤギテレビ」より

石巻市の桃生中学校では3日、東日本大震災の追悼集会が開かれた。参加した生徒が示したのは犠牲者への追悼。そして、震災の記憶を語り継ぐ決意。3月11日で震災から12年となるのを前に、石巻市の桃生中学校では追悼集会が行われ、生徒たちは震災の犠牲者に対して黙とうを捧げた。桃生中学校では、震災遺構の視察や被災者からの聞き取りなどを通じて、震災を学び続けている。

このうち、「いのちの大切さを学ぶ会」として活動する武田瑚白さんが、学んだことを語り継ぐ大切さを伝えた。

<武田瑚白さん> 「被災した人たちの気持ちを100%理解することは無理だと感じる一方で、絶対に忘れてはいけない記憶だと感じた。あんなに暗い状況の中で立ち上がり、前を向き、復興のために歩き出した人が多くいる。そんな人たちのおかげで今の明るい町があるということ伝えていきたい」 桃生中学校では、今後も被災した地域を尋ねるなどして、命の大切さを学ぶ活動を続けていくという。



3月6日（月）宮城・石巻市の中学校で震災の追悼集会 生徒が学んだ教訓を発表
3/3(金) 18:08 配信「東日本放送」より

宮城県石巻市の中学校で東日本大震災の追悼集会が開かれ、生徒らが授業などを通して学んだ教訓などを発表しました。

「東日本大震災で心に深い傷を負った人はたくさんいます。つまり防災とは、災いから私たちの心と体、命を守ることだと考えました」 桃生中学校では、震災翌年の2012年から毎年この時期に追悼集会を開いています。 これまでは教員から生徒に震災について伝えていましたが、生徒らが主体となって震災の教訓などを発表しました。 この中学校では阪神淡路大震災の被災地、兵庫県の中学校とオンラインの交流授業を行ったり、震災遺構門脇小学校で防災の大切さを学んだりと積極的に活動していて、そこから学んだ教訓や命の大切さなどを学年ごとに発表しました。 このうち2年生は震災を

知らない世代が増える中、語り継ぎ被災地から伝えていくことの大切さを話しました。 桃生中学校2年生「暗い状況の中でも立ち上がって復興に向けて歩いてきた人たちがいるという、マイナスの方向だけじゃなくて、プラスの明るい話と一緒に伝えていけたらきっとみんなにも伝わりやすいのかなと思います」 桃生中学校では、これからも命の大切さを考える授業を継続的に行っていく予定です。



3月6日（月）2学年「絶対に忘れてはいけない記憶」中学生が示した“追悼”と“語り継ぐ決意” 宮城・石巻市

3/3(金)「日本テレビ」より

0テレNEWS

「絶対に忘れてはいけない記憶」中学生が示した“追悼”と“語り継ぐ決意” 宮城・石巻市



石巻市の桃生中学校では3日、東日本大震災の追悼集会が開かれた。参加した生徒が示したのは犠牲者への追悼。そして、震災の記憶を語り継ぐ決意。

3月11日で震災から12年となるのを前に、石巻市の桃生中学校では追悼集会が行われ、生徒たちは震災の犠牲者に対して黙とうを捧げた。

桃生中学校では、震災遺構の視察や被災者からの聞き取りなどを通じて、震災を学び続けている。このうち、「いのちの大切さを学ぶ会」として活動する武田瑚白さんが、学んだことを語り継ぐ大切さを伝えた。

<武田瑚白さん>

「被災した人たちの気持ちを100%理解することは無理だと感じる一方で、絶対に忘れてはいけない記憶だと感じた。あんなに暗い状況の中で立ちあがり、前を向き、復興のために歩き出した人が多くいる。そんな人たちのおかげで今の明るい町があるということを伝えていきたい」

桃生中学校では、今後も被災した地域を尋ねるなどして、命の大切さを学ぶ活動を続けていくという。

3月6日（月）宮城・兵庫の中学生 震災学習で意見交換「日ごろから心構え」宮城・石巻市
ミヤギテレビより

東日本大震災から12年となるのを前に、石巻市の中学生が兵庫県の中学生と交流し、震災の恐ろしさや避難の重要性について意見を交わした。石巻市の桃生中学校では、「阪神・淡路大震災」を経験した兵庫県の竜山中学校と去年10月からオンラインで交流会を続けていて、今回で3回目。6日は1年生約50人が、今年1月に震災遺構「門脇小学校」を訪問した時に、被災者から聞いた話や素早い避難の必要性などを伝えた。〈宮城・桃生中学校の生徒〉

「『児童と避難訓練通りに避難し、校内にいた児童は全員助かった』この話を聞いて、『まあいいか』ではなく自分に厳しくしていきたいと思った。日常生活を大切にしていると助かる命もあるのだと納得した」〈兵庫・竜山中学校の生徒〉「避難経路とか防災学区や避難場所などを家族と話し合っただけで準備することや、いつ来てもいいように日ごろからの心構えが重要だと思った」桃生中学校と竜山中学校では、震災学習を通して来年度も交流を続けていく予定。

3月8日（水）宮城・兵庫県の中学生 震災学習で意見交換「日頃からの心構え」宮城・石巻市 3月3日（金）日テレNEWS より



東日本大震災から12年となるのを前に、石巻市の中学生が兵庫県の中学生と交流し、震災の恐ろしさや避難の重要性について意見を交わした。

石巻市の桃生中学校では、「阪神・淡路大震災」を経験した兵庫県の竜山中学校と去年10月からオンラインで交流会を続けていて、今回で3回目。6日は1年生約50人が、今年1月に震災遺構「門脇小学校」を訪問した時に、被災者から聞いた話や素早い避難の必要性などを伝えた。

<宮城・桃生中学校の生徒>

「『児童と避難訓練通りに避難し、校内にいた児童は全員助かった』この話を聞いて、『まあいいか』ではなく自分に厳しくしていきたいと思った。日常生活を大切にしていると助かる命もあるのだと納得した」

<兵庫・竜山中学校の生徒>

「避難経路とか防災学区や避難場所などを家族と話し合っ準備することや、いつ来てもいいように日ごろからの心構えが重要だと思った」

桃生中学校と竜山中学校では、震災学習を通して来年度も交流を続けていく予定。

3月13日（月）震災を知らない世代へ 命を守る学習、模索 石巻地方

3月11日 11:50「石巻かほく」より

東日本大震災から12年。被災地では震災を経験していない世代が増え、石巻地方では教訓の伝承をはじめ、児童生徒や未来の命を守る防災教育の重要性が一段と高まっている。（浜尾幸朗）

桃生中 遺構を見学、兵庫の中学生に伝える

石巻市の内陸部にある桃生中（生徒178人）は本年度、全学年が市震災遺構門脇小で防災学習に取り組み、当時の状況や津波の恐ろしさを学んだ。震災を自分事として捉え、できることを考え行動に移す。命の重さを伝え、つなぐ活動は、震災を知らない世代や未来の命を守ることにもつながる。

1年生（52人）は1月18日、門脇小校舎の見学や被災者の講話を聞く体験学習に臨んだ。当時、門脇小校長だった鈴木洋子さんは震災当日の児童の様子や避難について説明し「門脇小の校舎は津波や火災に遭い、それぞれの階で被害が違う。どう逃げるか考え、危機的状況でも安全な判断ができる大人になってほしい」と話した。



展示館で被災遺物などを見学する1年生=1月18日

日和幼稚園遺族有志の会の佐藤美香さん、女川中卒業生有志でつくる「女川1000年後のいのちを守る会」の渡辺滉大さんらの講話も聞いた。被災した校舎や展示館を見学し、南浜・門脇地区を襲った津波と火災、石巻市全体の被害を学んだ。

後日、交流先の兵庫県高砂市の竜山中1年生に震災で起きた石巻の被害や特徴をまとめて紹介した。桃生中1年生は新年度、門脇小での語り部活動も視野に入れる。

同校は本年度、生徒一人一人の無限の可能性を育むことを重点事項とし、命の大切さを学ぶ体験活動に力を入れている。

震災から12年。3月3日には「みやぎ鎮魂の日」生徒集会（いのちの大切さを考える会）を体育館で実施した。東日本大震災で亡くなった多くの人たちを追悼するとともに、一人一人の命を守り、育むことについて考えるのが狙いだ。

全員で犠牲者に黙とうした後、学年ごとに防災学習の取り組みを発表した。1年生の代表は災害に備える大切さを説き「自分にできることを行動に移し、誰かのためになる生活を送ろう」と呼びかけた。

2年生の代表は、震災を知らない世代が増えていく中で（1）震災の事実と恐ろしさを理解し広める（2）震災の恐ろしい記憶と知識、それを乗り越える絆を未来につなげる一ことを目的に活動したと説明した。

門脇小では、映像で当時の状況などを学んだ。桃生地区の避難所も見学した。新年度は、女川1000年後のいのちを守る会の活動を体験する。

阿部薫心さん（14）は「震災を自分事と受け止め、学んだことを次の世代に伝え、未来の命を守りたい」と話した。

「いのちの大切さを考える会」会長の武田瑚白さん（14）は「震災を絶対に忘れてはいけない。記憶を風化させないためには語り継ぐこと」と語り、東北以外でも伝承活動を継続する必要性を強調した。

3月15日（水）「新桃生タイム」がスタートしました

先週は第54回卒業式が実施され、とても感動的な卒業式となりました。新型コロナウイルス感染症により様々な制約がありましたが、68名の卒業生は、桃生中学校の3年間を充実したものに、自らが作り出し、数々の成果を残してこの学び舎を巣立つことができました。4月から始まる新しい人生が更に豊かなものになることを大いに期待しています。

素晴らしい卒業式を作り上げた1・2年生に来年度更に充実した学校生活になるように、「新桃生タイム」について全校集会で説明がありました。

「新桃生タイム」は、昨年12月に全校生徒と保護者の皆様にご記入いただきましたアンケート結果について、職員で協議を積み重ね、検討してきたものです。一人一人の桃生中生の良さや可能性を伸ばすため、我々教職員は、「生徒が、できた・分かったと実感できるような授業の質を高める」、「学級や学年、そして全校生徒のより良い人間関係を作り、生徒の活躍の場を意図的に設定する」の2点です。全校集会で説明した資料は次のとおりです。また、各教科の学習の仕方についても、改めて生徒に渡しました。自分の家庭学習の仕方について振り返ってみよう、ご家庭でもお声掛けください。

新「桃生タイム」について

令和5年度「桃生タイム」実施計画

	月	火	水	木	金
朝読書 15分	朝読書①読書タイム1	朝読書②読書タイム2	朝読書③	学年集会（朝読書）	「1週目を振り返って」記入
朝の10分	朝の会①	朝の会②	朝の会③	全校集会（朝読書）	朝読書④読書タイムの振り返り
昼休みまで	空日の学習内容を振替（教科係） → 生徒はタブレット等で記録 ①私の学習のあゆみ ②教科別学習ファイル等 → 学級担任へ（原則：週1回）				
帰りの会	班会議	帰りの会① ・月が部一班会議	帰りの会②	帰りの会③	帰りの会④
放課後 15分	6時間目（50分） 「アディショナルタイム」	専門委員会（第3選） 中央委員会（第4選）	学年プログラム委員会	※ 活動時間：15分以内 1 班会議（月曜、帰りの会） 2 学級アディショナルタイム（水曜、朝読書） 3 学年プログラム委員会（水曜、放課後） 4 学年集会（金曜、本郷・朝） 5 全校集会（金曜、本郷・朝） 6 専門委員会（第3火、放課後） 7 中央委員会（第4火、放課後） 8 読書タイム（月、火の朝読書）	

「アディショナルタイム」について

- 1 月曜日6校時に実施。
- 2 国・社・数・理・英の5教科（問題用紙は、職員室前に準備）（ファイルを配布）
- 3 小学校1年生からの問題から、中学校3年生までの問題に挑戦。
- 4 自分のペースで進める。苦手なことなどを、教科担当の先生に質問すること。
- 5 日高見希望塾として、自主学習に活用可。

朝読書について：深く読み、書く力を育てる

	月	火	水	木	金
朝読書 15分	朝読書の読書タイム1	朝読書の読書タイム2	朝読書の	学年集会（奇数週）	朝読書の読書タイムの振り返り
朝の10分	朝の会	朝の会	朝の会	全校集会（偶数週）	朝の会

- 1 金曜日、資料配付
- 2 月曜日、自分の感想・考えを文字にする。
- 3 火曜日、隣の人の作文を読み、感想等を記入する。
- 4 作文用紙を図書委員が回収し、1階に掲示。
- 5 挑戦：新聞社へ投稿（NIE活動）

家庭学習：

授業で学んだことを自分の力にする

目標

1 毎時間の「授業のねらい」が、「自分の力」となるまで、学習を続ける。

2 数値目標；前回より「10%アップ」を積み重ねる。

※ 1日に必要な家庭学習時間の目安「**学年+1時間**」

家庭学習：どうするのか？

1 休休み中に、翌日の学習内容を板書（教科係）
⇒タブレット等で記録

2 帰りの会で、「私の学習のあゆみ」に、
家庭学習計画を記入

「私の学習のあゆみ」 月 日 (月) ~ 月 日 (日) 2 年 A 組 8 0 番 名前 石原 太郎

日	月	火	水	木	金	土	日
13	予定 実務	英語授業準備書 英語授業準備書	数学ワーク問題 数学ワーク問題	社会実習 社会実習+実習	帰りの会までに記入 家庭学習記入		
14	予定 実務						
15	予定 実務						
16	予定 実務						
17	予定 実務						
18	予定 実務						
19	予定 実務						

目標 1週間に1回の提出

1 毎時間の「授業のねらい」が、「自分の力」となるまで、学習を続ける。

2 数値目標；前回より「10%アップ」を積み重ねる。

※ 1日に必要な家庭学習時間の目安「**学年+1時間**」

家庭学習：どうするのか？

1 休休みまでに、翌日の学習内容を板書（教科係）
⇒生徒はタブレット等で記録

2 帰りの会で、「私の学習のあゆみ」に、家庭学習計画を記入

3 「私の学習のあゆみ」「教科ファイル」（家庭学習）「成績カード」など
二者面談・三者面談等で活用
⇒あなたの「できた」を増やす

自分たちの学級・学校生活をより充実させるために

	月	火	水	木	金
朝読書 15分			学級プログラム委員会	学年集会（奇数週）	「1週目を振り返って」記入
朝の10分			朝の会	全校集会（偶数週）	朝の会
帰りの会	班会議	月が振休→班会議	帰りの会	帰りの会	帰りの会
放課後 15分		専門委員会（第3週） 特別委員会（第3週） 中央委員会（第4週）	学年プログラム委員会		

自分たちの学級・学校生活をより充実させるために

「1週目を振り返って」

1 金曜、朝自習で
「1週目を振り返って」記入

2 月曜、帰りの会「班会議」

3 水曜、朝自習

「学級プログラム委員会」

4 水曜、放課後

「学年プログラム委員会」

※ 時間は全て15分以内

自分たちの学級・学校生活をより充実させるために

※ 活動時間：15分以内

- 1 班会議（月曜・帰りの会）
- 2 学級プログラム委員会（水曜・朝読書）
- 3 学年プログラム委員会（水曜・放課後）
- 4 学年集会（奇数・木曜・朝）
- 5 全校集会（偶数・木曜・朝）
- 6 専門委員会（第3火・放課後）部活動有り
- 7 中央委員会（第4火・放課後）部活動有り

新「桃生タイム」

令和5年度「桃生タイム」実施計画

	月	火	水	木	金
朝読書 15分	朝読書の読書タイム1	朝読書の読書タイム2	朝読書の	学年集会（奇数週）	朝読書の読書タイムの振り返り
朝の10分	朝の会	朝の会	朝の会	全校集会（偶数週）	朝の会
帰りの会	班会議	月が振休→班会議	帰りの会	帰りの会	帰りの会
放課後 15分	専門委員会（第3週） 特別委員会（第3週） 中央委員会（第4週）	学年プログラム委員会			

今週から実施

⇒ **新学年へのスタートの始まり**